

## 5. 今後の検討で踏まえるべき課題

文化交流拠点施設の概要については、前章までの内容をたたき台として、引き続き市民等からの意見を聴きながら、方向性を検討していく必要があります。

検討にあたっては、市の人口展望や財政状況、今後実施予定の大規模事業なども踏まえていく必要があります。

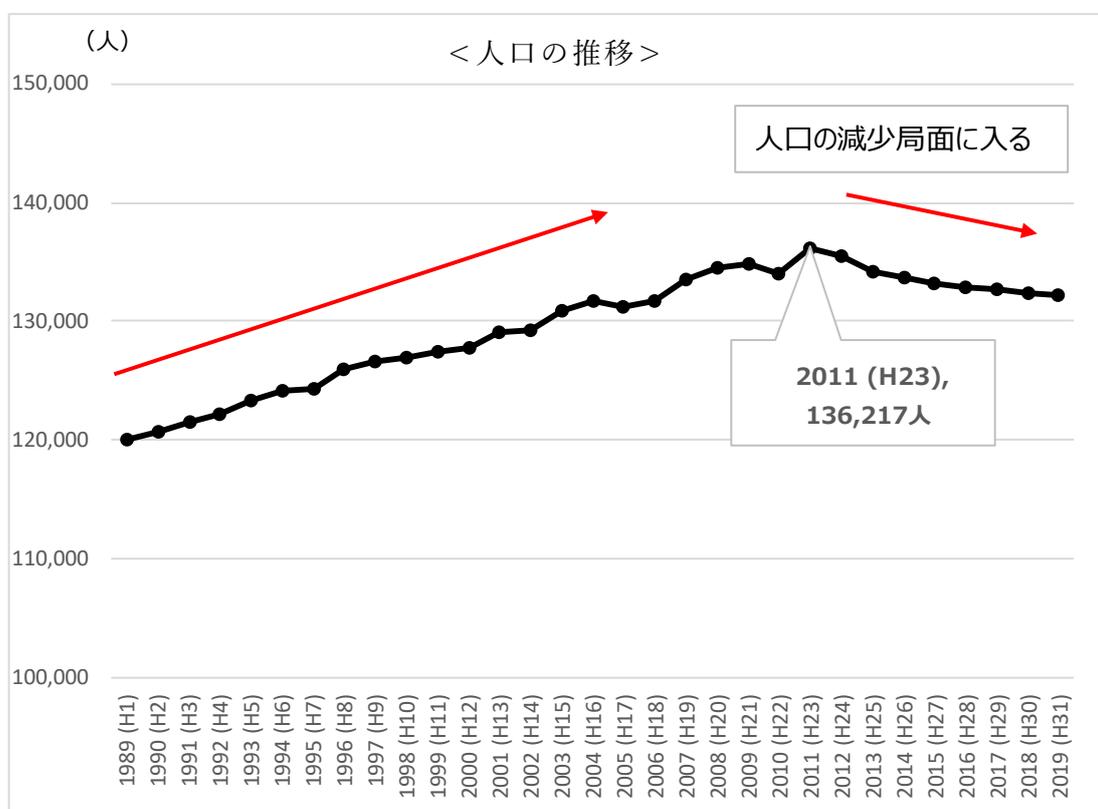
そのため、本章では、今後の検討で踏まえるべき課題を整理しました。

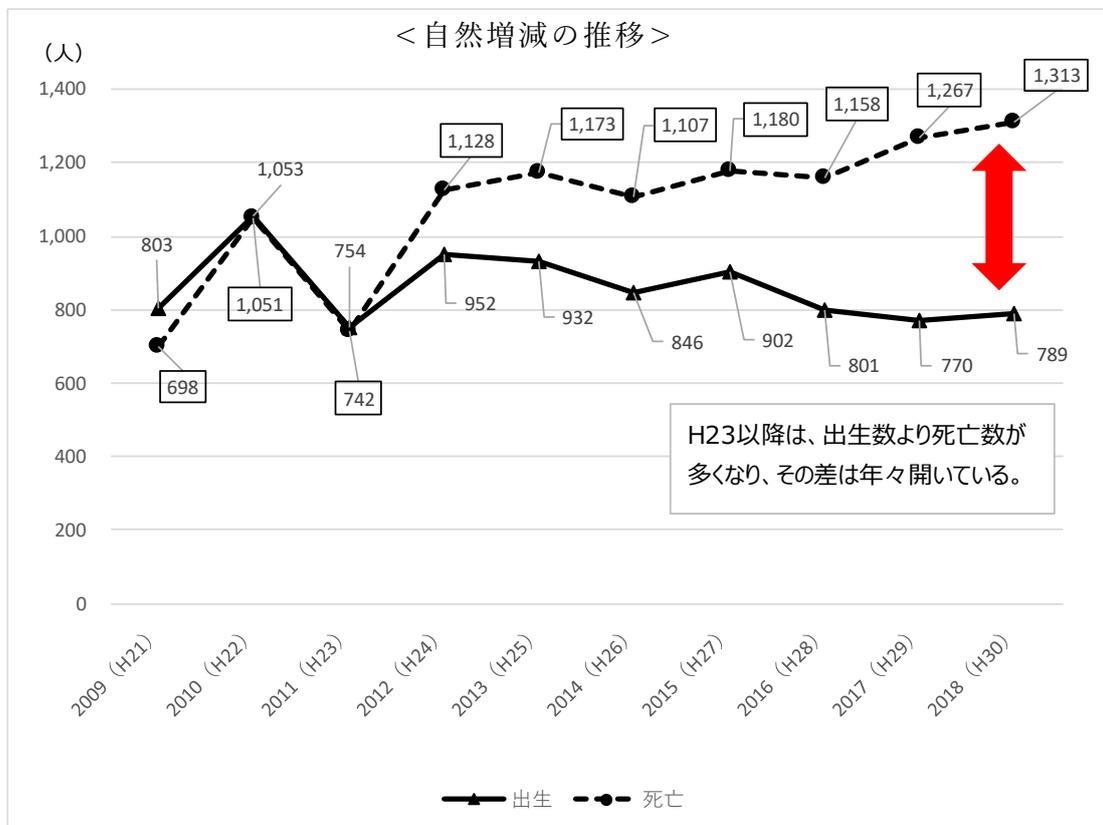
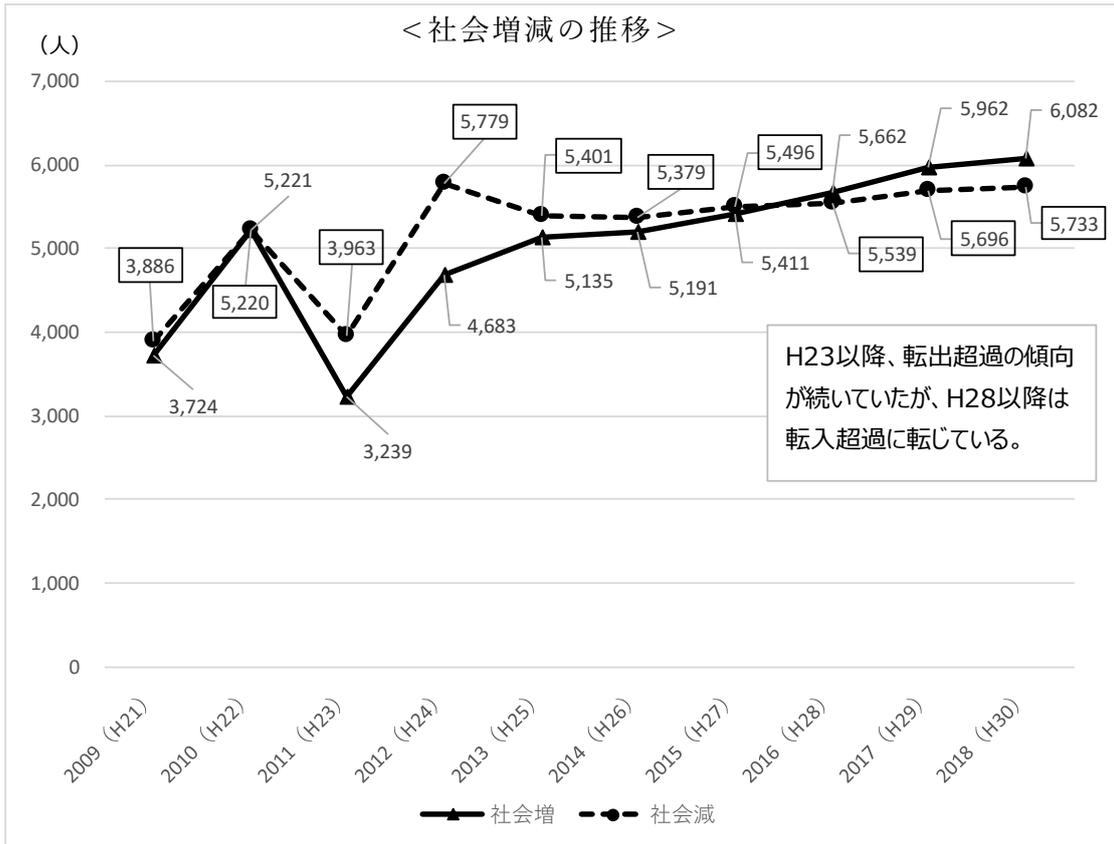
### (1) 人口の展望

#### ① 人口の推移

本市は、市制施行の昭和 45（1970）年以降、首都圏 30km 圏内という地理的優位性から急激な都市化が進み、人口は順調に伸びてきました。

しかし、その伸びは、平成 21（2009）年頃から鈍化し始め、平成 23（2011）年の 13 万 6,217 人を境に減少局面に入っています。この人口の減少傾向は、当初、転入者よりも転出者が多い「社会減少」によるものでしたが、最近では、出生数よりも死亡数が多い「自然減少」によるものに変化しています。少子高齢化が続く中、この構造的な人口減少は、今後も続くものと見込まれます。





## ② 将来の成人式出席者数の予測

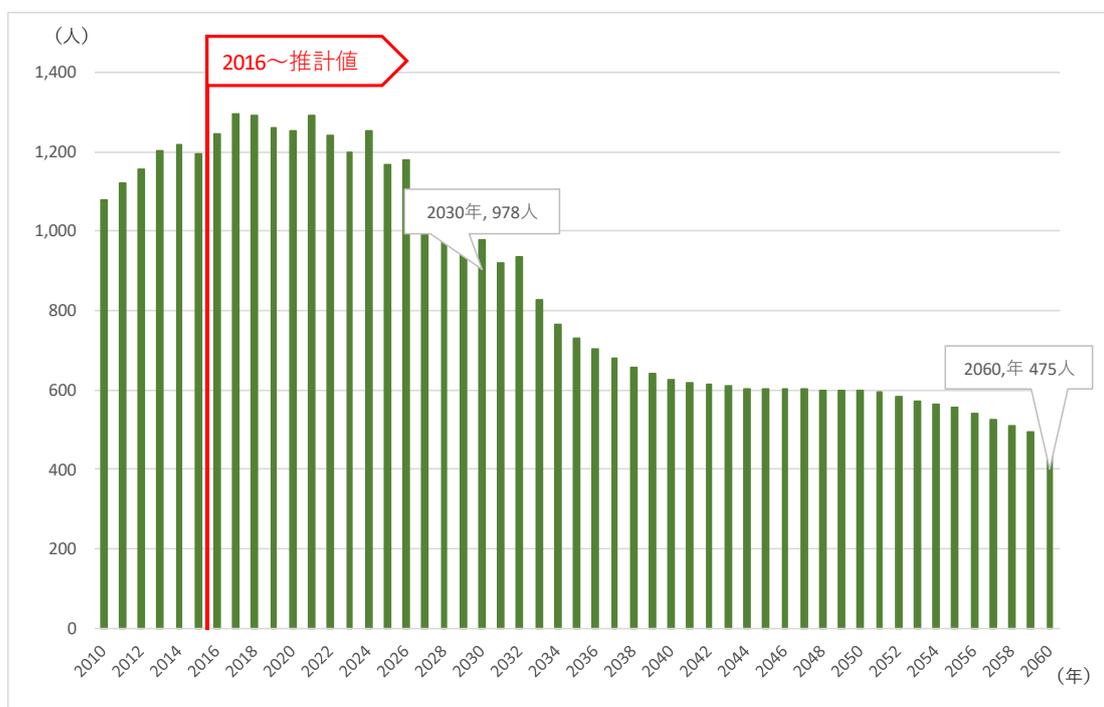
ホールについて、現在 2 部制で行っている成人式を 1 部制で行えるような規模を希望する声が多くあります。

そのため、平成 27 (2015) 年 7 月に実施した『我孫子市第三次基本計画 人口の見通し』の人口推計基礎データと、最近の成人式への出席率 (75% 前後) をもとに、将来の成人式への出席者数を試算しました。

その結果、平成 31 (2019) 年の成人式には約 1,000 人が出席していましたが、10 年後の出席者数は約 730 人、40 年後には約 350 人となりました。

今後の検討では、こうした人口展望から見た需要の予測も踏まえる必要があります。

< 将来の成人 (18 歳) 人口の予測 >



(『我孫子市第三次基本計画 人口の見通し』基礎データから作成)

< 直近の成人式出席率 (成人 : 20 歳) >

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
該当者数 (人)	1,190	1,223	1,256	1,249	1,288	1,357
出席者数 (人)	902	950	940	922	931	1,018
出席率	75.80%	77.68%	74.84%	73.82%	72.28%	75.02%

(生涯学習課データから作成)

## (2) 財政状況

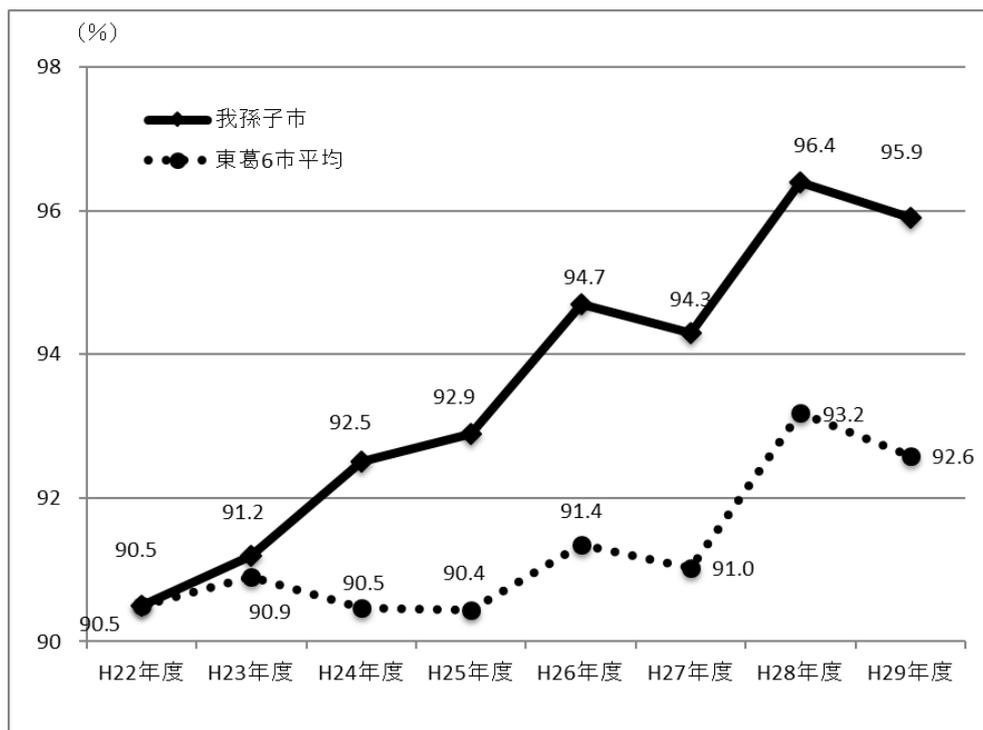
### ① 経常収支比率の推移

経常収支比率とは、家計に例えると、収入に対して、住宅ローンの返済や食費などの生活費、教育費など毎月かかる固定費が占める割合を表すものです。この比率が高いほど臨時的な支出にお金を回す余裕に乏しく、財政構造が硬直化していることとなります。

我孫子市の経常収支比率は、下図のとおり、東葛6市の平均よりも高い傾向にあります。平成29(2017)年度は、約96%でした。この要因として、少子化対策や高齢化社会への対応による医療や介護にかかる経費の増加などがあります。

今後も少子高齢化が続くと見込まれる中、こうした社会保障に必要な経費は増加を続けることが予想され、新たな事業の実施にあたっては、優先順位をつけながら、また、財源の確保策も同時に検討しながら、取り組んでいく必要があります。

<経常収支比率の推移>



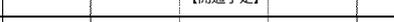
② 今後実施を予定している主な大規模事業

市では、限られた財源の中、市民の生活や安全・安心を最優先に取り組んでいます。

例えば、新クリーンセンターの整備のうち、新廃棄物処理施設の建設に約 158 億円、維持管理と運営に 20 年間で約 112 億円かかりますが、市民生活になくてはならない施設であり、最優先に取り組んでいます。また、東消防署湖北分署の建替えにも約 11 億円かかりますが、市民の安全・安心のためには必要な事業です。さらに、市民の安全・安心を守るためには、引き続き、水害対策にも取り組んでいく必要があります。

<今後実施を予定している主な大規模事業>

新クリーンセンターの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新廃棄物処理施設</li> <li>・建設費 約 158 億円</li> <li>・維持管理と運営費 20 年間で約 112 億円</li> </ul>
湖北台地区の消防署、幹線道路、保育園・広場の一体整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東消防署湖北分署の建替え</li> <li>・工事費 約 11 億円</li> <li>○消防団第 13 分団器具置場の移転</li> <li>○国道 356 号「湖北台団地入口」から湖北台に伸びる幹線道路を中里・日秀地区へ延伸整備</li> <li>○湖北台保育園とわくわく広場の建替え</li> </ul>

年度	2019 (令和元)	2020 (令和2)	2021 (令和3)	2022 (令和4)	2023 (令和5)	2024 (令和6)	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	.....	
新クリーンセンターの整備		 <建設費> 約158億円 【完成予定】			 <維持管理・運営費> 2023年度～2042年度の20年間で約112億円、約5.6億円/年							
東消防署湖北分署の建替え		 <工事費> 約11億円				 【開設予定】						
下ヶ戸・中里線外 1 線の整備 (中里・日秀地区への延伸整備)							 【開通予定】					
湖北台保育園・わくわく広場の建替え					 【開園予定】							
手賀沼公園・久世家線の整備					 【開通予定】							
我孫子駅エレベーターの設置						 (工期未定)						
公共施設の老朽化対策 (後述③)		 <大規模改修等の費用> 2018年度～2037年度の20年間で約98.7億円、約4.9億円/年										

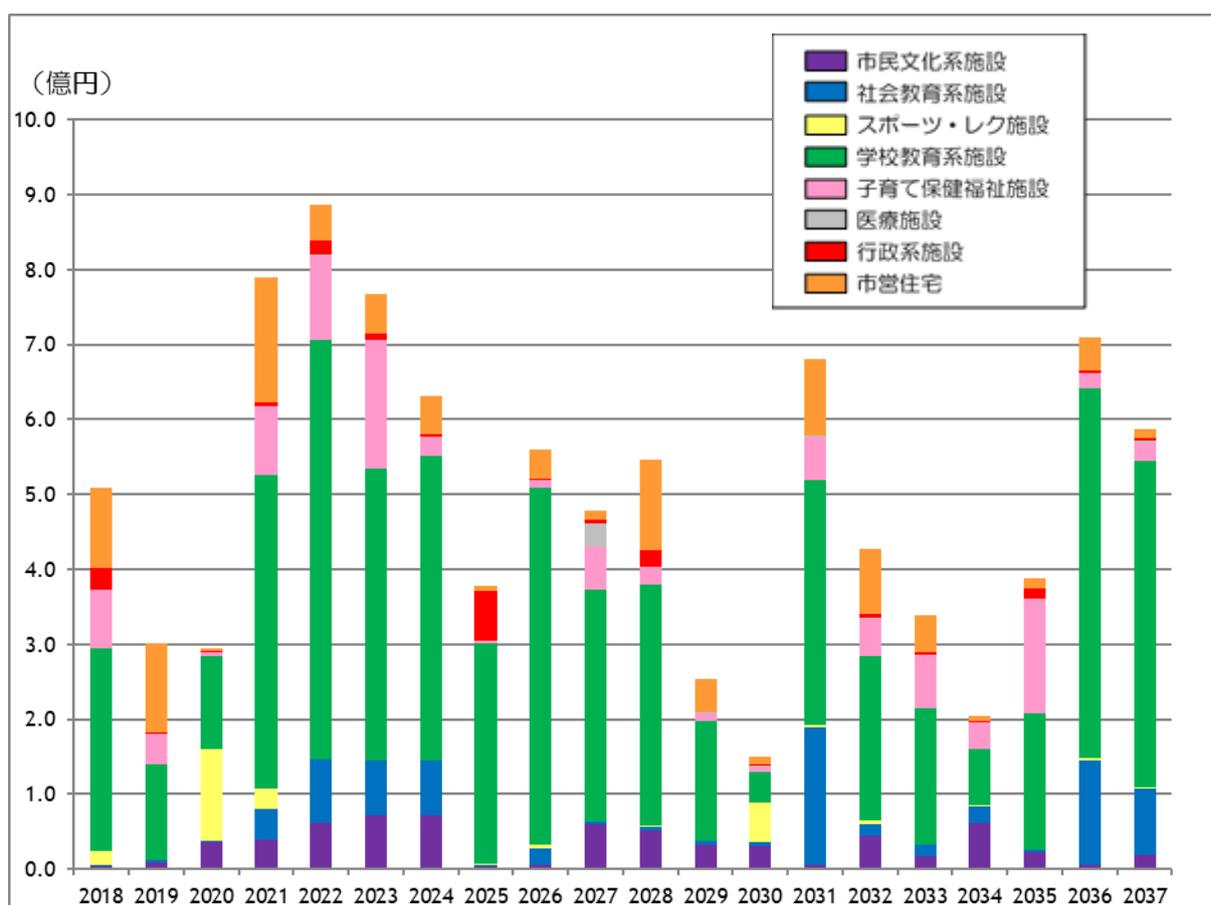
### ③ 公共施設の老朽化対策

高度経済成長期の人口増加に伴い、本市では学校や道路などの整備を進めました。しかし、これらの公共施設等は老朽化が進んでいることから、市では、その安全確保のため、機能維持や建替えのための費用が今後増加すると見込んでいます。

平成 30（2018）年 3 月に策定した『我孫子市公共施設保全計画』では、計画期間の平成 30（2018）年度から令和 19（2037）年度までの 20 年間で、小中学校の老朽化対策を中心に、合計 98.7 億円、年平均 4.9 億円の工事費用が必要になると推計しています。

ただし、この費用には設計費や諸経費などは含んでおらず、建設費単価の上昇も見込んでいません。そのため、実際の金額は、さらに高くなると考えています。

<公共施設の老朽化対策に必要と見込まれる費用>



(『我孫子市公共施設保全計画』 p.22)

<老朽化している公共施設の例>

分類	施設名	建築年度
学校系施設	我孫子第四小学校	1964
	湖北台西小学校	1969
	湖北台中学校	1969
市民文化系施設	布佐南近隣センター	1985
	天王台北近隣センター	1986
保健・福祉、行政系施設	老人福祉センター つつじ荘	1974
	西消防署つくしの分署	1978

### (3) 建設費単価等の上昇

今回の建設構想（案）では、平成 26（2014）年度の調査研究報告書で示した建設費単価 56 万円/m<sup>2</sup>を用いて、建設費を試算しました。

ただし、建設費は建物の仕様や建築単価で大きく変わってきます。

また、現在は、資材単価や労務単価が上昇しています。例えば、平成 26 年度の建築単価と最新（平成 31（2019）年 3 月）の建築単価を比較すると、コンクリートで約 5～15%、労務単価（鉄筋工）で約 15%の上昇となっています。

このことを踏まえると、文化交流拠点施設の実際の建設費やライフサイクルコストは、今回の試算よりも高くなると考えられます。

そのため、今後の検討においては、こうした建築費単価等の上昇も考慮する必要があります。

## (4) 旧市民会館および近隣文化ホールの利用状況

### ① 旧市民会館の利用状況

旧市民会館の利用状況（下表）を見ると、600人以上で利用した日数は、どの年度も年間約40日前後で、稼働率で見ると15%程度にとどまっています。

ホールの規模を検討する際には、こうした数字も参考にする必要があります。

<旧市民会館の概要>

施設概要			
設置場所	我孫子市我孫子1855番地		
開館	1979（昭和54）年11月1日		
敷地面積	6,221㎡		
建築面積	3,395㎡		
延床面積	7,163㎡		
機能			
部屋名	面積	収容人数	備考
ホール	1,427㎡	1,000名	
大会議室	213㎡	210名	
第二会議室	73㎡	24名	
第三会議室	93㎡	36名	
第四会議室	52㎡	18名	楽屋兼用
第五会議室	50㎡	18名	楽屋兼用
第六会議室	54㎡	24名	
その他	ギャラリー、レストラン等		

<旧市民会館の利用状況>

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
利用可能日	304日	305日	308日	307日	304日
利用日数	125日	125日	141日	164日	160日
利用人数	58,512人	44,892人	57,338人	52,625人	53,889人
利用件数 ※1	130件	122件	150件	182件	177件
600人以上利用日数	43日	32日	41日	41日	38日
<b>稼働率 ※2</b>	<b>42.8%</b>	<b>40.0%</b>	<b>48.7%</b>	<b>59.3%</b>	<b>58.2%</b>
<b>利用率 ※3</b>	<b>41.1%</b>	<b>41.0%</b>	<b>45.8%</b>	<b>53.4%</b>	<b>52.6%</b>
<b>1件あたりの平均人数 ※4</b>	<b>450.1人</b>	<b>368.0人</b>	<b>382.3人</b>	<b>289.1人</b>	<b>304.5人</b>
<b>600人以上稼働率 ※5</b>	<b>14.1%</b>	<b>10.5%</b>	<b>13.3%</b>	<b>13.4%</b>	<b>12.5%</b>

※1. 1日を3区分とし、同じ使用者が継続して利用したときは1件、それぞれ別の使用者が利用したときは3件とカウント

※2. 利用件数÷利用可能日×100

※3. 利用日数÷利用可能日×100

※4. 利用人数÷利用件数

※5. 600人以上利用日数÷利用可能日×100

## ② 近隣文化ホールの利用状況

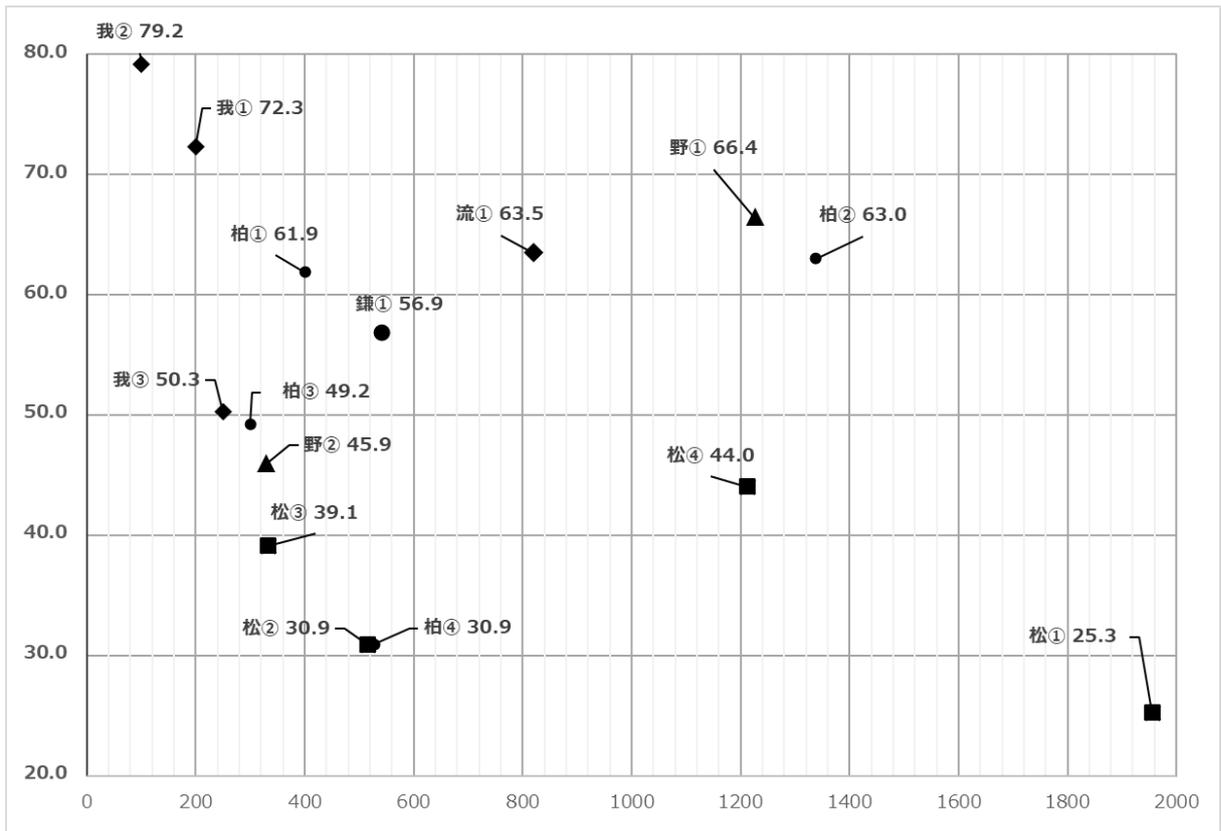
東葛飾地域の6自治体（松戸市・柏市・流山市・野田市・鎌ヶ谷市・我孫子市）で構成する東葛広域行政連絡協議会の中堅職員検討会では、平成29（2017）年度から、「公共施設の相互利用」をテーマとして研究を行っています。

平成30（2018）年度は、相互利用の実現可能性を検討するため、対象施設を文化ホールと庭球場に絞り、施設の詳細な稼働率を調査するとともに、施設所管課の意見を聞きました。考察結果は、『東葛広域行政連絡協議会 平成30年度企画部門中堅職員検討会 研究報告書』として、とりまとめています。

報告書では、大規模な施設で稼働率が低い傾向にあることや、大部分の施設所管課は稼働率を引き上げたいと考えていることなどが報告されています。

<文化ホールの座席数と稼働率>

No.	市	グラフ中の表記	施設名	設備	座席数	全体稼働率	
1	柏市	●	柏①	アミュゼ柏	クリスタルホール	400	61.9
2			柏②	市民文化会館	大ホール	1338	63.0
3			柏③	市民文化会館	小ホール	300	49.2
4			柏④	沼南近隣センター	大ホール	528	30.9
5	我孫子市	◆	我孫子①	市民プラザ	PLAZAホール	定員200	72.3
6			我孫子②	市民プラザ	PLAZAギャラリー	定員100	79.2
7			我孫子③	湖北地区公民館	ホール	250	50.3
8	松戸市	■	松戸①	文化会館	大ホール	1955	25.3
9			松戸②	文化会館	小ホール	516	30.9
10			松戸③	市民劇場	ホール	332	39.1
11			松戸④	市民会館	ホール	1212	44.0
12	鎌ヶ谷市	○	鎌ヶ谷①	市民会館	きらりホール	540	56.9
13	野田市	▲	野田①	文化会館	大ホール	1226	66.4
14			野田②	櫛のホール	小ホール	330	45.9
15	流山市	◇	流山①	市民会館	ホール	820	63.5



(『東葛広域行政連絡協議会 平成 30 年度企画部門中堅職員検討会 研究報告書』 p.11)